



学生奮戦記!

測るための研究をしています。ため池は農業用水として使われていますが、もう使われなくなった池や、地図では確認できるが、実際にあるのかはわからない池もあり、そんな池ではGPSを頼りに探索します。また、魚群調査では、魚を捕るために試行錯誤を繰り返して、現在は定置網を設置し、どのような魚がいるのかを調べています。草木が生い茂る道なき道を進み、森の奥に佇む池を発見した時の興奮と達成感、大きなコイが捕れた時や、ブラックバスが大漁だった時の充実感を味わうことが出来ました。



“宮田村”をアピール
経済学部経済学科4年 赤羽 彬

私の大学生活の中心は、ゼミ活動です。大学の知る知多半島には、無数のため池があり、そこに生息する魚群や水質の調査、池の経済的価値を調べることに興味があります。お世話になり、商店街と宮田村に繋がりがあつたことから、“名古屋で宮田村をアピールしよう”という企画に参加したのです。オープン前は、期末試験や就職活動などで忙しく、準備が思うように進まず、チラシ作りや看板作りなどギリギリまで作業は続きましました。準備不足がたり、いろいろな問題が発生しましたが、それらの困難も仲間と協力し乗り越えることができ、また、商品を売る楽しみや、ジュースやジャムなどを「美味しかった」と言って、また買いにきてくださったお客さんがいて、“やって良かった”と思えました。多くの人に、宮田村の存在を知っていただくことができたと思っています。

このことがきっかけとなり、個人的にスタッフとして活動したり、商店街で長野県宮田村のアンテナショップを1ヵ月やらせていただいたりしました。宮田村には、3年生の夏、インターンシップ(職場体験)で村役場にお世話になり、商店街と宮田村に繋がりがあつたこと、”名古屋で宮田村をアピールしよう”という企画に参加したのです。オープン前は、期末試験や就職活動などで忙しく、準備が思うように進まず、チラシ作りや看板作りなどギリギリまで作業は続きましました。準備不足がたり、いろいろな問題が発生しましたが、それらの困難も仲間と協力し乗り越えることができ、また、商品を売る楽しみや、ジュースやジャムなどを「美味しかった」と言って、また買いにきてくださったお客さんがいて、“やって良かった”と思えました。多くの人に、宮田村の存在を知っていただくことができたと思っています。

(辰野高校出身)

目次:

学生奮戦記	1
県人会が歓迎会	1
本学教員の長野での活動	2
卒業生から・私の仕事	2
長野地域同窓会	3
平和への祈りのメッセージ	3
“ふくし”のアート展	3
松本オフィスブログ	3
茅野市美術館	4
インフォメーション	4

県人会が歓迎会!

四月、県内からは53校120名の学生が入学。さっそく長野県人会による歓迎会が開かれました。自己紹介では、サッカーにうちこみたい、資格対策をしつかりやつて、長野に戻りたい、大学でも合唱をやりたい、など力強く、思い思いに抱負をかたりました。

また四月末、新学期の慌ただしさが落ちつくころ、県人会主催でパーティーが開かれ、篠田顧問の伝統・恒例の自家製野沢菜の提供にはじまって、豚汁は上級生による手づくりの逸品。ふるさとの味を堪能しました。

がんばれ!新入生



自主学習こそ!

健康科学部理学療法専攻 3年丸山 千絵子

私がリハビリテーション学科で日々学んでいることは、高校の勉強とは異なり、授業中は友達とペアになり筋肉を触つてみたり、実際に臨床の場で行う検査方法を練習したりと、座っているだけの授業ではありません。そこでは座学だけでは分からない、自分で体験しなくては感じられないことがたくさんあります。自分が学びたいと思っていることの知識や経験を得ることは、とても楽しく毎日が充実しています。

しかし、毎日の授業だけでは覚えられないことの方が多く、予習・復習がとても大事になってきます。私は高校生の時もテスト直前に勉強を行うと、いつたその場しのぎの勉強方法でした。大学に来てから莫大な量の知識を覚え、4年生の終わりに受ける国家試験に向けて勉強を進めるために予習や復習の大切さを痛感しました。昨年度の2月に行った実習では、自分の勉強不足を感じた学生が多く、学生内で自主的に勉強を進めようということで、学生間で勉強会を行いました。これは春休み中に自分たちが実習で感じたことや、分からなかったこと、または他の学生へのアドバイスなどを中心に行いました。先生方にも協力していただき、問題点を少しずつ減らしていきましました。このように自分たちで考え、勉強していく場がこの大学には多くあります。また、普段からみんな仲が良く、この前も実習の打ち上げを専攻内で行ったところ、ほぼ全員が参加しました。勉強するときは勉強する、遊ぶときは遊ぶというように区切りをつけて楽しんで学生生活を送っています。私は自分たちで考え、自分たちが行動する自主性のあるこの大学がとても気に入っています。

(松本美須ヶ丘高校出身)

県内各地で、本学教員の活動すすむ

2009年はこれまでにない規模で、日本福祉大学の教員が「信州」と関わった年でした。福祉分野では、社会福祉学部の篠田道子教授が松本市のデイサービスセンター「結いの街」で職員研修の講師を半年間にわたって担当し、継続的な学習支援を行い、子ども発達学部の木全和巳教授も松本市内の知的障害者施設「コムハウス」での職員研修のスーパーバイザーとして半年にわたって研修支援を行いました。同学部教授で近藤直子副学長は松本市でアルプス福祉会の障害児保育、子育て講演会の講師、長野県の保育士現職研修会の講師も務めました。自治体との関係では社会福祉学部の石川満教授が阿智村保健福祉審議会委員、村の社会福祉法人「夢のつばさ」の理事を務めています。原田正樹准教授は茅野市の地域福祉審議会委員として活動を継続中です。千頭聡国際福祉開発学部教授も宮田村第5次総合計画策定アドバイザー、情報化計画策定委員会座長として地域の域づくりを支援しています。宮田村の地域づくりに関しては、さらに経済学部の原田忠直准教授が、村の都市連携事業を支援し、名古屋市内の商店街でのアンテナショップ運営に協力しています。また加茂浩清准教授とともに、高遠町の活性化にも取り組み、経済学部の学生も含めて高遠高校の授業運営を支援しています。授業支援ではこのほか、福祉経営学部の後藤順久教授が福祉大の学生と辰高生の合同キャンプによる町の魅力再発見活動を実施したほか、二〇一〇年春には辰野町の御柱祭に後藤ゼミの学生十二人が参加。ご神木の里牽きなどにも加わり、伝統ある行事を体験しました。（関口和雄学部長も同行し、法被をまとい、祭りスタッフとして、会場整理?にも活躍しました!）このほか佐久総合病院での大学院実地研究時に同病院で行われた「地域ケア構築の視座」公開講座には、二木立、近藤克則、牧野忠康、篠田道子各教授が報告を行いました。

通信教育部の明星智美助教が長野県同窓会の研究会にコメントーターとして参加したほか、社会福祉士対策講座の講師も担当しました。松本オフィスの津田道明所長も小布施町のくりのみ園の理事を務めています。

私の仕事 ~福祉大卒業生のいま~

私はもともと看護師でしたが、病院での被虐待児との出会いから福祉に関心をもち、美浜キャンパス移転の年に二部生として入学しました。卒業後長い年月を経て、現在は松本市の地域包括支援センターに勤務しています。地域包括支援センターは、平成18年度の介護保険制度の見直しによって新たに位置づけられた機関です。松本市には3つの直営包括と5つの委託包括がありますが、私は後者で、元来は社会福祉法人恵清会（特別養護老人ホーム真寿園）の職員です。包括は、社会福祉士・主任ケアマネージャー・保健師等の3専門職種を配置し、高齢者の総合相談支援・権利擁護・包括的継続的マネジメント支援・介護予防ケアマネジメントの4機能を担っています。（ちなみに私は社会福祉士ではなく、保健師等の資格で配置されています。）

制度の矛盾や忙しさの中に押しつぶされる事がありますが、この仕事を通して学ぶ事や喜びを感じる事もたくさんあります。認知症の方が地域で尊厳をもって暮らせるようにと、理解を深める為の啓蒙啓発活動もしていますが、地域の方が深い関心を持つて下さったり、関係者や地域の方々の連携や協働によって、ひとつの事柄が成し遂げられたり改善したりするとやはり嬉しいものです。

多くの高齢者が、戦争の痛みや苦しみを心の奥に押し留め、家族や社会の為に働き、健康や暮らしに不安を抱えながらも強くなややかに生きてきました。10人の高齢者がいれば、10人のドラマがありまます。今人生の集大成のステージに立っています。どのドラマも私に尊敬の念を与えます。「最期まで、自分の好きな場所で、自分らしく、自分の思う通りに暮らしたい」という願いのお手伝いや、寄り添う事が出来るこの仕事は、私は大好きです。

高齢者の命と暮らしに寄り添う仕事
松本市南東部地域包括支援センター
下林 智恵子



当院は回復期リハ病棟233床を中心としたベッド数429床のリハ専門病院です。医療ソーシャルワーカー（以下MSW）は7名います。現在のリハ医療は脳血管疾患など発症直後の「急性期リハ」急性期病院から発症2ヶ月以内の転院患者に365日リハを行う「回復期リハ」退院後は介護保険による訪問リハなどの「維持期リハ」というようにに在院日数短縮化と連携をキーワードに効率的なりハ提供が求められています。そのため、MSWも患者入院時のインテーク面接、Dr.Ns.リハスタッフによるチーム医療としての合同リハ会議への参加、会議結果のゴールに基づきケアマネジャー等と連携して在宅支援など業務をシステム化しています。

現在、国が進める医療改革の目指すべき方向は「利用者の視点に立った効率的で、安心かつ質の高い医療の提供」となっています。しかし、効率的な医療の流れとは別に、日々の相談業務の中では今日の経済格差を反映して医療費の支払いが困難な未収金など経済的問題や家族関係の悪化など多問題ケースが増えています。先頃も生活苦で車を手放したと思われる患者さんのご家族の面接を行いました。一ヶ月6万円の生活保護基準以下の国民年金収入だけでは車の所有は困難です。今、医療現場の退院支援は多問題ケースほど「満床」という言葉で施設側の受け入れ拒否にあり、在宅支援ではケアマネジャー探しの課題、地域包括支援センターには力量の差があり、市町村など行政機関は公平性を保つべき立場から多問題ケースだけ特別に相談にのれないと。本来、連携すべきケースほど連携がとれない医療ソーシャルワーカー援助の困難性が広がっています。

診療報酬に位置づけられた業務を行ないつつも、ソーシャルワークの価値が問われる「困難事例」にも対応していくことが医療現場のMSWに求められています。

リハビリテーション医療の現場から
鹿教湯三才山リハビリテーションセンター
鹿教湯病院 医療相談室 山田 恵美子



(前列中央:山田さん)

長野地域同窓会がセミナーを開催

地域同窓会 初の試み 論集を刊行!

長野地域同窓会は、大学同窓生の研究や実践の成果ならびに課題を集約し、今後の活動につなげるための初めての試みとして論集を刊行しました。

論集には、杉田義夫氏、新保賀朗氏、伊藤直哉氏の3名による実践レポートがまとめられ、2月に開催された地域同窓会総会と合わせて発表がされました。当日は、コメンテーターに本学助教の明星智美先生をお迎えし、地域に根ざした貴重な提言や論議が行われました。

また、信濃毎日新聞社の取材もあり、その様子が翌日の朝刊(平成22年3月1日付地域信州ワイド)に掲載されました。



(転載記事より)

日本福祉大同窓会がセミナー
日本福祉大(愛知県)の長野地域同窓会は28日、社会福祉に携わる同窓生が実践を報告するセミナーを長野市の県社会福祉総合センターで開いた。同窓会の総会に合わせた初の試み。県内の病院や行政で働く3人が日ごろの取り組みを発表した。

同窓生ら約30人が出席。同大社会福祉学部の卒業生で、県厚生連佐久総合病院(佐久市)医療社会事業科長の杉田義夫さん(59)は、精神障害者のグループホームを十年前に開設した活動などを報告。入居者が仲間同士の交流などを通じて精神的に落ち着き、病院に入院する機会が以前より減ったことなどを紹介した。今後は高齢化への対応や就業支援が必要とした上で、「希望する暮らし方の保障といった権利擁護の視点が欠かせない」と指摘した。

セミナーはお互いの交流を深め、それぞれの実践に生かす狙いで企画。同窓会長で社会福祉士の山本雄二さん(65)は「松本市は『交流が長野県全体の社会福祉を充実させる力になる』と話していた。」

美浜キャンパスでは "ふくし" のアート展

平和への祈りのメッセージ 長野県立歴史館



6月1日から、日本福祉大学美浜キャンパスでは、「ふくし」のアート&クラフト展が開かれています。これは昨春秋、JR松本駅構内でひらかれた「障害者施設のアート&クラフト展」に出品された施設の中から、知的障害者の支援をすすめている松本市のコムハウス(障害者就労センター)、小布施町のくりのみ園(障害者就労支援事業所)の協力を得て、施設の利用者の方たちの作品四〇点が、12号館の特設ギャラリーで展示されています。会期は八月十三日まで。

言語によるコミュニケーションが困難な障害を前に、学校教育や多くの施設での福祉実践のなかで、描画活動はさまざまな成果を生み出し、知的障害者の発達にとっても意義ある活動として定着してきています。今回のアート展は、未来の教師・未来の専門家、市民としての芸術の鑑賞と創造の力を確かめる場としても注目されています。

(下の写真はひめゆりの塔)



歴史館たより 2010年春号より

五月二十九日から、県立歴史館(千曲市)で春季企画展「ひめゆり 平和への祈り(沖繩戦から65年)」が開かれています。同館と沖繩のひめゆり平和祈念資料館、朝日新聞社の主催によるものです。ひめゆり平和祈念資料館は昨年、開館20周年を迎えましたが、学徒隊生存者は80歳をこえ、残された時間としては長くはなく、その思いを直接届ける機会として全国巡回展が企画されたものです。アジア・太平洋戦争末期、米軍が沖繩本島に上陸する直前、沖繩師範学校女子部、沖繩県立第一高等女学校の生徒二百二十二人と教師十八名が「学徒隊」として動員され、陸軍病院に配属。戦闘に巻き込まれ、二四〇人のうち、一三六人が戦場に命を失いました。いま多くの高校では沖繩修学旅行が取り組まれ、平和学習が続けられていますが、事前・事後の学習としてもこの企画展をぜひ見てほしいと思います。七月十一日まで。

松本オフィスでは、今年度よりブログを始めます。現在、リニューアル準備中ですので、公開まで今しばらくお待ちください。

今後ブログでは、松本オフィス通信でもご紹介している長野県出身学生の大学生活の奮闘ぶりや、地域や同窓会の情報、また県内の高校の紹介、地域で活躍している同窓生の仕事等を紹介していきます。

もちろん入学説明会や資格対策講座など、長野県に密着した情報を発信していきたいと考えています。

それぞれの情報はカテゴリ別にわけてありますので、読みたい内容のカテゴリをクリックするだけで最新の記事を読むことができます。

【日本福祉大学HP】

<http://www.n-fukushi.ac.jp/>

松本オフィスブログ 近日公開

松本オフィスブログでは

- ◎長野県出身学生の大学生活の様子 『県出身の学生奮闘記』
- ◎ユニークな活動をしている各高校の情報 『あなたの町の高校訪問』
- ◎地域に貢献し、活躍の場を広げている各施設の情報 『ふくしの現場から』
- ◎県内の美術館や博物館からのメッセージ etc

様々な情報を紹介していきます。

もちろん、過去に発行したオフィス通信も読むことができます。日本福祉大学や松本オフィスのことを知りたい方は、ぜひアクセスを!!

※松本オフィスブログのアドレスは次号でご紹介します。

茅野市美術館 おじいちゃん おばあちゃんを写そう 木之下晃ワークショップ 寿齢賛歌V-人生のマエストロ-

2006年より始まった寿齢賛歌のこの企画は、今年で5年目を迎えます。この写真展は賞を与えるコンテストではなく、人生が映し出される高齢者の表情を大切に記録し、未来への遺産にしていくことを目的としています。

応募作品は、木之下晃氏の講評を経てモノクロデジタルプリントし、茅野市美術館内に展示します。参加者の方々には、応募作品を掲載した作品集を差し上げることになっています。

日本福祉大学もこの企画に協賛し、支援いたします。身近にいる、おじいちゃんやおばあちゃんにカメラを向けながら、人生の先輩から多くを学んでくれることを期待しています。

是非この機会に、身近な被写体にカメラを向けてみるのはいかがでしょうか。

あなたの1枚が写真集に

【募集要項】

◆テーマ
人生を積み重ねた高齢者の奥深い表情や生活や営む姿を撮影する。被写体はおおむね80歳以上の方々。

◆応募資格

年齢、性別、国籍、プロ・アマを問わない。

◆参加費

一人一枚の場合、2000円 二枚の場合3000円
応募枚数は1人2枚まで。

◆応募期間

2010年 5月1日(土) ～ 6月30日(水)

◆応募方法

茅野市民館事務室窓口にて参加費をお支払いいただき、作品を提出してください。窓口へ直接提出できない場合は、作品を厚紙に挟むなどして折れないように送付してください。参加費は、左記の 郵便振替口座に入金してください。(要手数料)
〔口座番号〕0055005138172
株式会社地域文化創造

◆詳しくは、茅野市美術館までお問い合わせ下さい。

◆茅野市美術館 (茅野市民館内)

長野県茅野市塚原一丁目1番1号

電話 0266-821822

FAX 0266-821823

HP <http://www.chinoshiminkan.jp>

プロフィール

木之下 晃

Akira Kinoshita



木之下 晃氏

1936年長野県諏訪市に生まれる。諏訪青陵高校卒業後、日本福祉大学で学ぶ。中日新聞社、博報堂を経て、フリーの写真家となり、音楽関係の写真を中心に国内外で活躍。2009年、4月より日本福祉大学客員教授。

◇寿齢賛歌V-人生のマエストロ-

- ◇主催 茅野市美術館 茅野市民館指定管理者 株式会社地域文化創造
- ◇企画運営 NPO法人サポートC 美遊com.
茅野市民館指定管理者 株式会社地域文化創造
- ◇協賛 日本福祉大学 株式会社ニコン 株式会社ニコンイメージングジャパン
- ◇後援 茅野市 茅野市教育委員会 茅野市社会福祉協議会
株式会社日本カメラ社 信濃毎日新聞社 長野日報社
市民新聞グループ エルシーブイ株式会社

インフォメーション

◆オープンキャンパスのご案内

今年も、夏・秋とオープンキャンパスを開催します。疑問や悩みにお応えします。是非ご参加下さい。

◎美浜キャンパス

- ・7月17日(土) (17日:松本発バスツアー開催決定)
- ・8月22日(日) ・11月6日(土)

◎半田キャンパス

- ・7月18日(日) ・8月29日(日) ・10月31日(日)

※時間は全日 10時～16時
詳しくは、大学入学広報課(TEL0569-8712212) または、松本オフィス(TEL0263-319011)まで。

◆ケアマネジメントセミナーのご案内

長野県年齢別推計人口によると、今年の4月1日時点で、75歳以上の「後期高齢者」の割合が、15歳未満の年少人口を初めて上回ったと発表されました。

介護を必要とする方を社会全体で支える仕組みとして導入された介護保険制度も施行されて今年で10年。要介護高齢者は増加傾向をたどっています。

県内には、介護老人福祉施設が135ヶ所、介護老人保健施設が87ヶ所、居宅介護支援事業所は618ヶ所、その他数多くの介護サービス事業所や施設があります。しかし、実際には施設の数はまだ足りていないというのが現状です。

サービスを提供する側と介護を必要とする方や家族との間で、連絡やケアプランを作り、調整を図っているのが、介護支援専門員(通称:ケアマネジャー)。やはり、人数不足のため現任にかかってくる責任は重く、課題も数多くあるのが現状のようです。

そこで、本学では「ケアマネジメントの基礎とケア会議の進め方」をテーマに、ケアマネジメンに従事されている方を対象としたセミナーを開催いたします。

・日程 平成22年7月10日(土)

・会場 松本勤労者福祉センター

・講師 野中猛(日本福祉大学社会福祉学部教授)

・内容 講義・事例検討

「ケアマネジメント技術の基本」インターネットからターミネーションまでのプロセスのポイント、他

受講料 6,000円

定員 100名(先着順)

申込期間 4月20日～6月25日 ※定員に達し次第締切

■詳細は、大学の社会福祉総合研修センターまで

(TEL)0262-242300(99)

日本福祉大学 松本オフィス

〒390-0815 長野県松本市深志1-2-1ミヤノオビル5階
電話(0263)31-9011/FAX(0263)32-8018

E-mail e-matsumoto@ml.n-fukushi.ac.jp

URL <http://www.n-fukushi.ac.jp/block/matsumoto/index.html>